

西大台利用者意向調査

1. 調査概要

西大台の利用者像を明らかにするとともに、西大台の利用のあり方や利用調整地区に関する意向等を把握することを目的として、調査員によるヒアリング形式による意向調査を実施した。

(1) 調査日：平成 16 年 5 月 22 日（土）及び 5 月 23 日（日）の 2 日間

1) 調査日の設定理由

入下山カウンター設置後最初のピーク予想日となる土曜日・日曜日を調査日とした。

2) 当日の天候等

両日ともに朝から曇りで昼前から小雨が降ったり止んだりのあいにくの天候であったが、気温はそれほど低下せず、濃霧に覆われることもなかったこと、多くの利用者が訪れる大阪・奈良方面の天気は比較的良好であったことから、天候による利用者の減少はそれほどなかったものと考えられる。

(2) 調査地点：①ナゴヤ谷、②開拓跡～開拓分岐周辺（移動）

1) 調査地点の設定理由

林内でのヒアリングとなるため、視界が開けて利用者が立ち止ったり、休憩をとるような場所を選んだ。

2) 当日の調査概況

ナゴヤ谷は移動途中の開けた空間になっているため、休憩を取る利用者や、休憩予定のない利用者でも立ち止ることができ、かなり高い回答率を得ることができた。

一方、開拓跡～開拓分岐周辺は利用者が立ち止るような場所がないため、調査員の判断により移動しながら出会った利用者にヒアリング調査を依頼する形式をとった。しかし、休憩地点というよりも西大台来訪の目的地として写真撮影等に熱中する利用者が多かったため、ナゴヤ谷に比べると回答率は低くなった。

(3) 調査形態：ヒアリング形式

調査場所を訪れるグループの代表者に対し、調査シートを用いたヒアリングを行った。

調査はグループの代表者に対してヒアリングを行っているため、50 人のグループの回答であっても単独での来訪者の回答であっても同じく 1 件として記録した。

(4) ヒアリング対象数

調査日／調査場所	ナゴヤ谷	開拓跡～開拓分岐周辺	合計
5 月 22 日（土）	9	2	11
5 月 23 日（日）	6	6	12
計	15	8	23

(5) その他関連事項

駐車場から西大台入口部の従来のルートは工事中で、朝から重機が止っており、西大台へは迂回路が設定されていた。この影響で工事がなかった場合よりも西大台利用者数が少なかった可能性がある。

また、この工事との関連性は不明であるが、ナゴヤ谷右岸上流部より「道に迷った」という理由で下りてくるグループが 2 組あった。

2. 調査結果

(1) 対象グループ（または代表者）の属性等

調査対象グループの構成、代表者の居住地、アクセス手段、来訪経験、スケジュールは次表の通りである。

①グループの規模別の集計

グループ構成は男性の単独行や2～3人の小グループが多く8割近くを占めているが、入山人数に換算すると10名以上の団体の入山者が全体の60%以上を占めている。

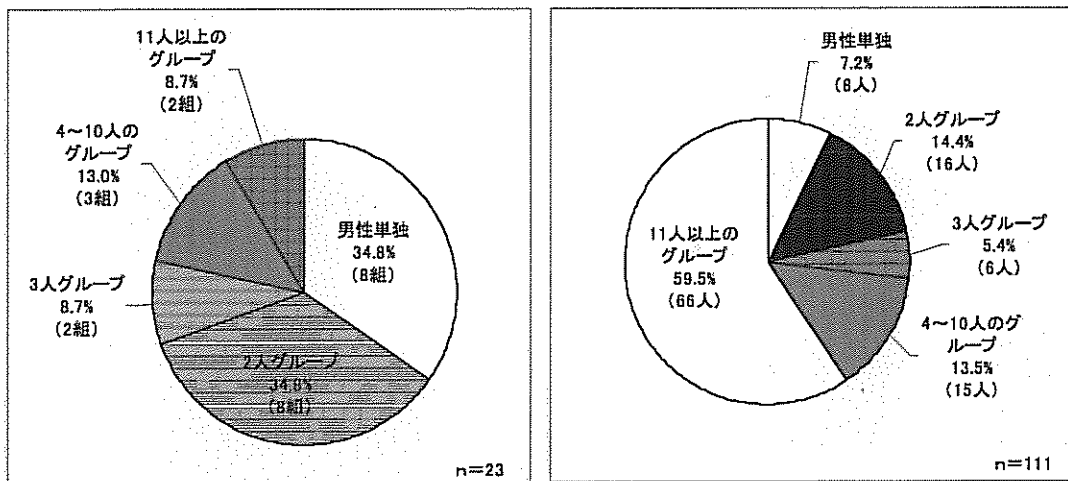


図1 グループ規模別のグループ数（左）と入山人数（右）

②グループ代表者の居住地、アクセス

調査対象者（グループ代表者）の居住地及びアクセスは、大阪府および奈良県からの来訪者が過半数を占め、近畿圏あるいはその近隣の都道府県からの来訪者が大半を占めていた。また、アクセス手段の70%以上が自家用車による来訪であった。これらは駐車場付近における過年度アンケート調査等と同様の結果であった。

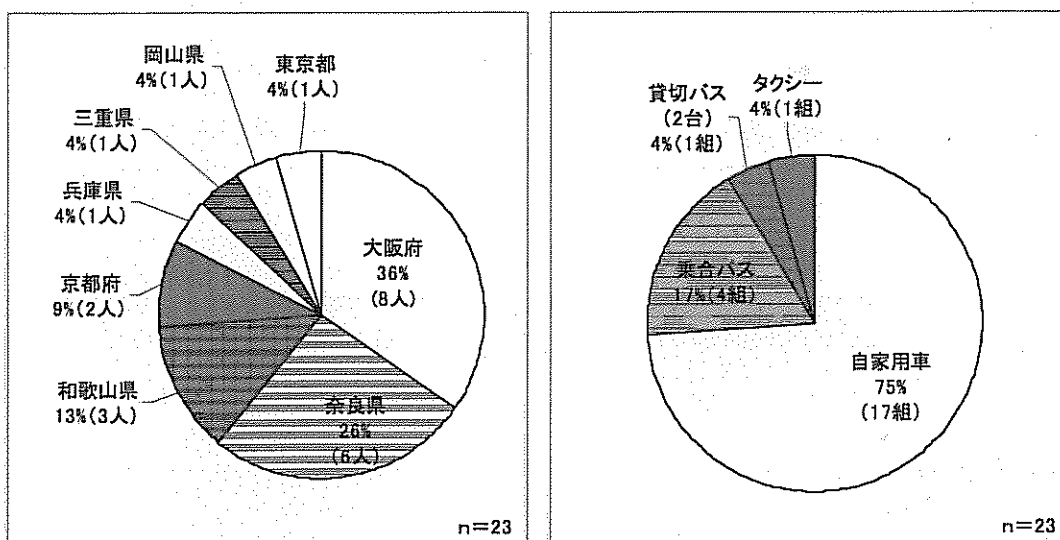


図2 グループ代表者の居住地

図3 グループのアクセス手段（右）

③グループ代表者の来訪経験

調査対象者（グループ代表者）の来訪経験は23人中11人が初めてと最も多いが、一方で年に何度も訪れる高頻度のリピーターの比率も高い。

あわせて来訪目的を尋ねると、初めて来訪する利用者からは「東大台や大杉谷の来訪経験はあるが西大台の来訪経験がなく一度歩いてみたかった」との声が多く、東大台と比較して情報量が少ないことが一因であると推測できる。また、「新緑」や「ブナ林」、「原生的な自然環境」といったテーマで幅広く西大台の自然環境を楽しみたいというような声が聞かれた。その他、来訪のきっかけとして、大台ヶ原の写真集を見て東京から来訪したというグループが1組あった。一方、来訪経験の多いリピーターほど写真撮影や動植物の観察など特定の目的のために来訪しているグループが多く、これらのグループは男性の単独行や少人数のグループの場合が多い。

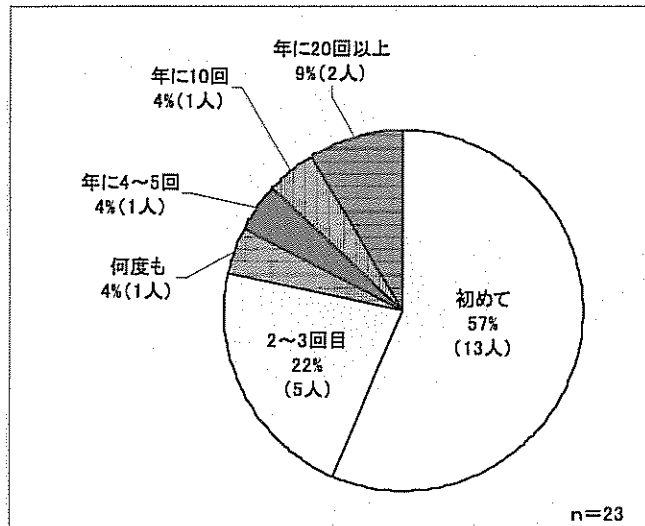


図4 グループ代表者の来訪経験

④スケジュール

来訪のスケジュールは日帰り利用が大半で宿泊予定のグループは東大台と西大台を1日ずつ歩く予定の2組であった。日帰り利用のグループは駐車場を起点に西大台を周回利用するパターンがもっとも多かったが、経ヶ峰を起点にするグループや七ツ池付近を起点にするグループなども一部見られた。

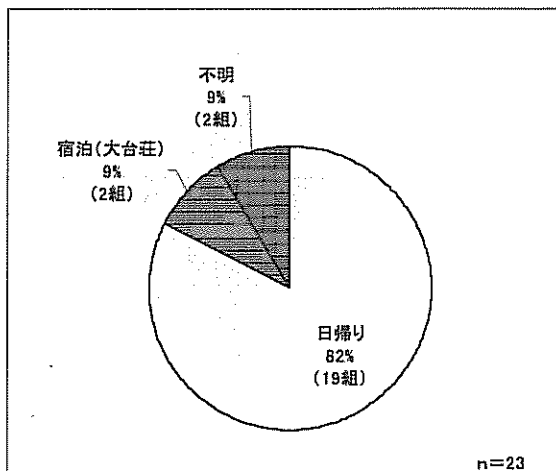


図5 調査グループの日帰り・宿泊の別

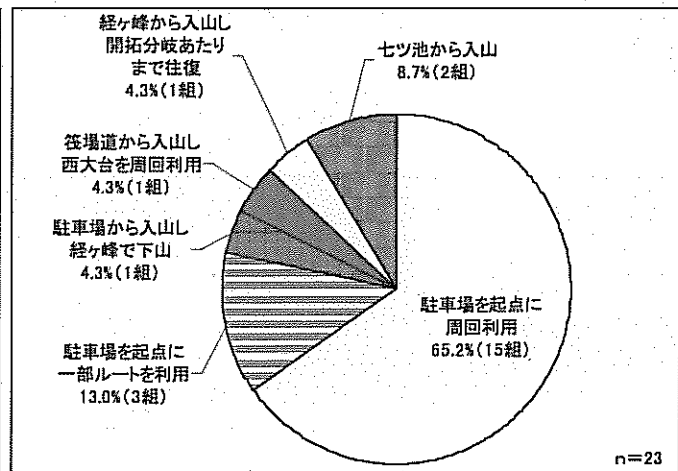


図6 調査グループの西大台の利用工程

表1 対象グループ(または代表者)の属性等

No.	グループ構成		居住地*1 都道府県	アクセス手段 *1	来訪経験*1			スケジュール		来訪目的	
	構成	人数			西大台	東大台*3	大杉谷	日帰・宿泊	登山等工程	きっかけ	目的等*2
1	友人(男のみ)	3人	京都府 京都市	自家用車	初	何度も	何度も	日帰り	西1周+東1周	東大台は何度も来訪して非常によかったため	登山
2	団体(全92名グループを東・西の2班に分かれて入山)	55人	奈良県 北葛城郡	貸切バス2台	3回目(グループとしては初)	—	—	日帰り	西1周	会員の希望(アンケート)	ハイキング、原生的自然、ブナ林、新緑
3	男性単独	1人	和歌山県 海草郡	自家用車	2回目	—	—	日帰り	西1周	以前来て良かったため	写真、動植物、新緑、特に鳥を見に来た
4	男性単独	1人	奈良県 橿原市	乗合バス	初	—	—	日帰り	西1周+東1周	—	鳥を見に来た、また東のシャクナゲ
5	友人(男のみ)	2人	大阪府 大阪市	自家用車	2回目 (もう一人は初)	1回(もう一人は2~3)	—	日帰り	西1周(展望台まで)	—	ハイキング、写真、新緑
6	家族	2人	奈良県 奈良市	自家用車	初	1回	0回	日帰り	ナゴヤ谷往復(ナゴヤ谷で屋敷)	晴れているのを見て急にやることにした、ハイキング	新緑、休日
7	男性単独	1人	奈良県 生駒市	乗合バス	2回目	3~4回	2回	宿泊 (大台荘)	5/22 西1周 5/23 東1周	東大台、大杉谷は何度も来訪しているが、西は長く来訪していないため	登山、写真、動植物、原生的自然、新緑
8	友人(男のみ)	2人	和歌山県 和歌山市	自家用車	初	何度も	何度も	日帰り	東1周+西1周(展望台まで)→ 小処温泉	東大台や大杉谷は何度も行っているため	東のシャクナゲ、西の自然、小処温泉、原生的自然、展望台、休日
9	職場のOB会	11人	大阪府 大阪市	乗合バス	初(グループとしても初)	—	—	日帰り	西1周	初めてだから	原生的自然、新緑
10	友人(男女)	6人	兵庫県 伊丹市	自家用車	初	5回以上	何回か	宿泊 (大台荘)	5/22 東1周 5/23 西1周	東大台、大杉谷は何度も歩いたが、西は初めてだから	ブナ林、新緑
11	男性単独 (カメラマン)	1人	大阪府 大阪市	自家用車	年に20回ほど	—	—	日帰り	七ツ池近くから入山→開拓あたりまでを散策	東より人が少ないため。駐車場あたりの混雑が嫌い	写真
12	男性単独	1人	大阪府 藤井寺市	自家用車	年に4~5回	年に4~5回	—	日帰り	西1周+東1周	以前来て良かったため	東のシャクナゲ
13	友人(男のみ) (カメラマン)	2人	奈良県 生駒郡	自家用車	初	数回	—	日帰り	西1周	人の評判を聞いて	原生的自然、新緑、写真
14	夫婦 (カメラマン)	2人	奈良県 大和高田市	自家用車	初	年に数回	—	日帰り	経ヶ峰から入山→開拓分岐あたりまでを散策	東はしばしば来訪。西は初めてだから	写真
15	友人(男女)	5人	三重県 松坂市	自家用車	3回目	—	—	日帰り	西1周	以前来て良かったため	新緑
16	友人(男女)	3人	大阪府 堺市	自家用車	何度も	—	—	日帰り	駐車場～時計回り～経ヶ峰(登りは疲れるので経ヶ峰と駐車場に車を1台ずつ駐車)	—	ハイキング、写真、原生的自然、ブナ林
17	男性単独 (カメラマン)	1人	大阪府	乗合バス	年に20、30回	—	—	日帰り	西1周	—	写真、自然、ブナ林
18	男性単独 (最近登山を始めた)	1人	大阪府	自家用車	初	0回	0回	—	笹場⇒西大台半時計回り	笹場から上がってくる途中で人に勧められた	—
19	夫婦	2人	岡山県 勝田郡	自家用車	年10回以上を10年以上	—	—	日帰り	七ツ池→ナゴヤ谷→駐車場→ 七ツ池	—	植物、野鳥
20	夫婦	2人	京都府	自家用車	初	3回	—	日帰り	西1周	—	—
21	友人(男女)	4人	大阪府	自家用車	初	年1回程	—	日帰り	駐車場⇄七ツ池周辺	—	ハイキング、写真
22	友人(男のみ)	2人	東京都 日野市	タクシー (東京から始発で来たが、乗合バスに間に合わないため)	初	0回	0回	—	駐車場⇄経ヶ峰分岐周辺	大台ヶ原の写真集をみて	写真
23	男性単独	1人	和歌山県	自家用車	2回目	10回	—	日帰り	西1周	—	写真、ブナ林

*1 ヒアリング対象とした代表者についての回答。その他はグループ

*2 来訪動機のうち目的等は、利用の目的(登山、ハイキング、写真撮影、等)や西大台を選んだ理由(原生的自然を体験できる、ブナ林の新緑が美しい、等)についてキーワードを示した。

*3 東大台、大杉谷の来訪経験は当初ヒアリング計画では想定していなかったが、現場で聞くことができたものについては参考に示した。

(2) 西大台における自然環境の変容等に対する認識

最初の来訪が10年以上前である4グループに対して、西大台における自然環境の変容について尋ねたが、「余り覚えていない」「自然が荒れたという印象はない」など、あまり明確な認識を持っていないことが分かった。その上で3つのグループからそれぞれ「苔がうすくなったような気がする」「倒木が増えたような気がする」「パイケイソウが増えた」の3点が得られた。

(3) 西大台利用者の満足度

開拓跡～開拓分岐周辺の利用者や西大台を時計回りに一周してナゴヤ谷に戻ってくるグループ11組に対して西大台の感想を聞いた。

いずれの利用者も西大台に対する満足度は高く「また来たい」という再来訪意思を示した。

満足度の高い理由について、自然環境の素晴らしさ以外に人の利用密度についてどう感じるかを尋ねると全ての利用者から人の少なさが西大台の大きな魅力の一つになっているという評価が得られた。また、東大台との比較で、「東大台のように観光化して欲しくない」「東大台と比べて西大台は静かが良い」「自然も西大台の方が良い」「歩道も東大台は過剰であり、今の西大台が適当である」などの意見が多くあげられた。

(4) 利用制限についての意向

1) 西大台への利用制限（利用調整地区）の導入について

調査員から西大台の自然が変容しつつある状況および西大台にも利用者が増加する傾向が見られることを簡単に説明した上で、西大台を対象とした利用制限（利用調整地区）の導入の是非について聞き取りを行った。

その結果、利用制限の導入に対する賛成意見は74%であり、反対が17%、どちらとも言えないが9%であった。

「賛成」の多くは、不便になるが自然を守るためなら仕方がないという者が多く、積極的に賛成という意見は少数であった。

「反対」や「どちらとも言えない」のうち

「西大台にも人が増えつつあるといっても自然環境へのインパクトはまだ少ないのではないかと必要性そのものを否定する意見は1グループのみであり、他は「素晴らしい自然環境を体験する機会は誰にでも自由にあるべきで自然環境の保全是他の方法が考えられないか」や「利用制限やマイカー規制を行わずともドライブウェイの有料化（1500円くらい）で入山者は半減するのではないかと」など他の手法で自然環境の保全を図ることが望ましいとする意見や、利用制限の対象について「団体人数の上限設定（10人くらいまで）をすべき」という意見であった。

次頁に「反対」、「どちらとも言えない」の理由と、特に自由意見の中で多く上げられた団体の入山に対する意見について示す。

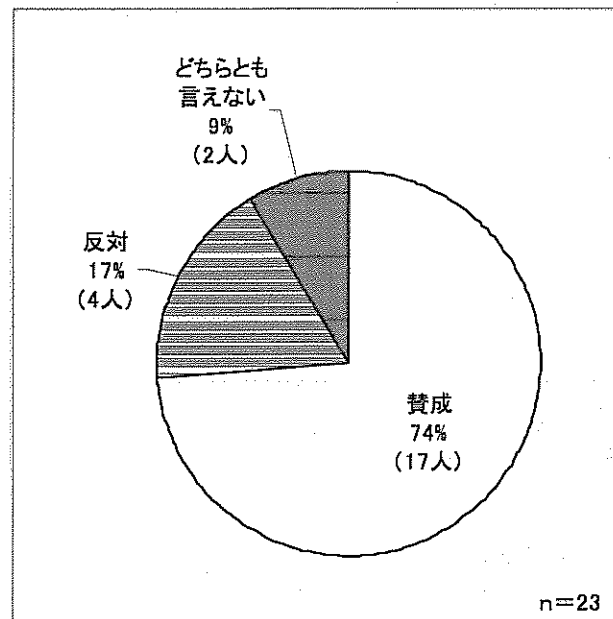


図7 利用制限の是非（グループ代表者の意見）

①利用制限以外の手法が望ましいとする意見

○他の方法を検討して欲しい。皆が素晴らしい自然を見るチャンスあるべきだが、それで荒れるなら問題である。
○利用者は今の半数ぐらいにすべき。利用制限やマイカー規制よりも、道路を有料化することで十分でないか。それだけで入込人数は半分ぐらいに減るのではないか。
○西大台は人を限定した方がよい。制限は全く問題ない。来る人は来るし、来ない人は来ない。しかし、入山料よりもシャトルバスがいいと思う。

②団体客の入山に対する意見（自由意見として上げられたものを含む）

○大きな団体は来て欲しくない。東大台のような観光地化は反対（旅行会社のツアーは反対）
○10人程度のグループまでに押さえるべき。大きな団体はリーダーの目が行き届かず、マナーが悪くなりがちである。
○大型観光バスはやめて欲しい。団体客には困っている。行動が重ならないようにしている。（夜中に来て朝8:00ぐらいに帰るパターンが多い）
○団体客の入山を禁止すべきである。10人が限度だと思う。ガイド同伴もいいことだと思う。

2) 利用者負担について

利用制限の導入に伴う利用者負担について尋ねると、利用調整地区制度の上限値として定められている1,000円程度なら問題はないという回答が38%で最も多く、次いで500円が28%、200~500円及び100~200円がそれぞれ11%であった。いずれの利用者においても負担金が発生することそのものに対して抵抗感を示す利用者は見られなかった。

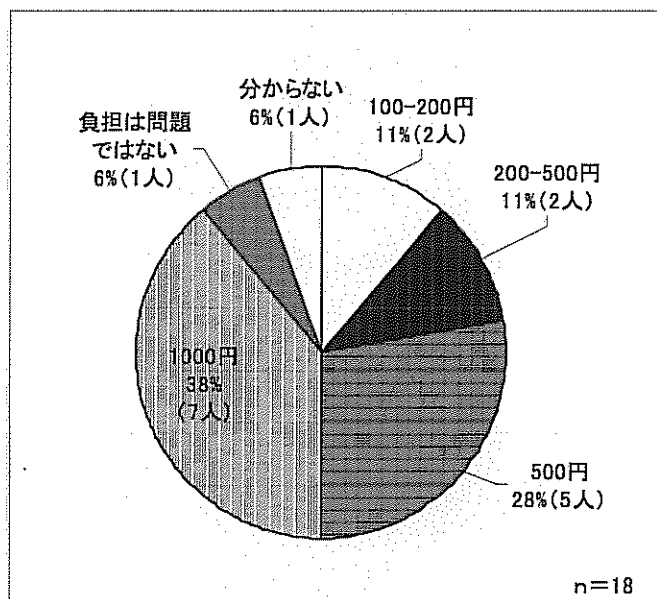


図8 利用者負担額（グループ代表者の意見）

3) 利用制限に係る運営システムについて

利用制限に係る運営システムのなかで申込み方法については、以下のように事前申込みかつ抽選（グループ抽選）による申込みが最も公平感があるのではないかという意見が多かった。このなかでは当日申込みは「大台ヶ原まで行って入山できなかつたら困る」ということで0%であったが、事前申込みにおいても「天気による当たり外れがある」という指摘もあった。

また、申込みのツールとしてはあなたなら何が便利かと尋ねると、インターネットまたはインターネットを含むツールがあると便利との回答が70%を占めた。

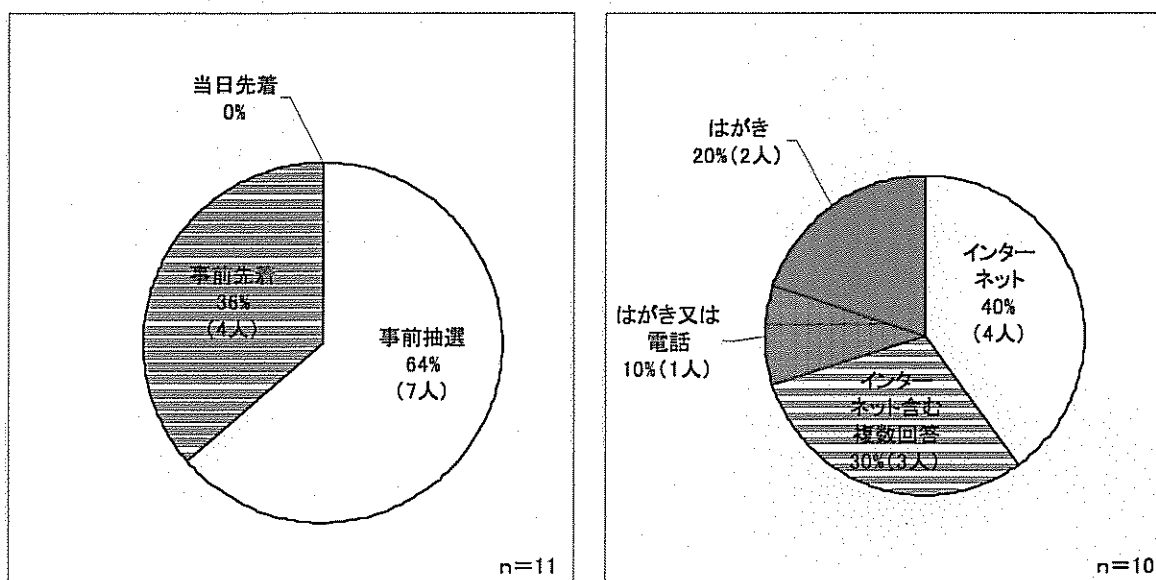


図9 申込み方法 (グループ代表者の意見)

4) 他の利用制限についての意見

調査対象者のなかにはマイカー規制に向けた検討が進められていることを情報として知っている利用者も見られ、西大台に限らない大台ヶ原全体での入込み対策について以下のような意見が上げられた。

○ドライブウェイ、駐車場は有料にすべき。受益者負担を徹底すべき
○マイカーの問題も早く何とかすべき。
○マイカー規制をすることはよいことだと思うが、観光バス、タクシーが除外されては意味がない。上高地方式ではなく、路線バスのみ制限すべき。不便になれば、本当に来たい人しか来なくなる。 しかし、シャトルバスのダイヤによっては、行動が狭められてしまう。日の出を見たいと思ってもバスがなければ前日から行くしかなくなる。そうであれば、キャンプ場が必要。もしくは、日の出をみる人のために朝5時くらいからバスの運行を希望。
○本来は下から自分の足で登るべき。シャトルバスでもよいけど、朝5時くらいからの運行を希望。大杉谷方面へ日帰りで行けなくなる。
○マイカー規制は良い道が整備されているのもったいない。
○シャトルバスは、始発、最終便などの時間に制限があるから不便。どちらかといえば、道路を有料化して、車で自由に来られる方がいい。規制することはよいことだと思う。規制があってもまた来たい。

(5) 自然体験について

西大台においてより深い自然とのふれあいと体験を提供するための意向把握を行ったが、具体的な意見が少なかったため、調査員から例として「ガイドツアー」や「条件付でキャンプを許可」することについての意見を把握した。

その結果、ガイドツアーについては賛成意見が多く、反対意見や問題点の指摘等は「ガイドツアーは賛成だが、団体で入るのは好ましくなく、小規模に行うべき」の一件のみであった。一方、条件付キャンプ許可については賛成と反対の両方の意見があり、反対意見のなかにはキャンプへのニーズはあるものの、実際の導入にはマナーの問題から慎重な意見もあげられた。

主な意見は以下のとおりであった。

1) ガイドツアー等について

○以前、東大台の観察会に参加したが非常に面白かった。西大台でも同じような企画があればぜひ参加したい。ただし、団体で入るのはどうかと思う。
--

2) キャンプ許可について：賛成意見

○条件付の許可制キャンプなどはぜひやってほしい。
○キャンプは賛成である。
○指定地の場所は今の駐車場の横でよい。トイレが絶対に必要。水は下から持ってきたらよいので、水場が絶対必要とは思わない。あれば楽という程度。

3) キャンプ許可について：反対意見

○個人的にはぜひキャンプを許可して欲しいが、必ずマナーの悪い人がいるので止めた方がよい。今でも道を外れる人、植物を踏む人が多くいる。
○キャンプはやめて欲しい。荒れるのが目に見える。
○キャンプは荒れるのだからすべきではない。

(6) その他要望等

西大台の利用に関して改善すべき点やより良くするための提案等を把握した。利用者から多く上げられた意見は2つで「迷いやすい箇所があるので対策をすべき」という意見と、「ゴミを捨てる人がいる」、「道を外れる人がいる」、「花を踏む人がいる」など利用マナーの改善に係る意見であった。この他、「西大台の利用に関する情報が少ない」や「人工林の天然林化」、「西大台でもシカの密度調整必要」、「トイレ問題」などがあげられた。

1) 歩道についての要望等

○道が分かりにくい箇所がある。サインを充実すべき。
○道が分かり難いところがある。手法としてはテープよりも目立たないロープで誘導するのが良い。
○迷わないようにもう少し印をつけて欲しい。手法は東大台のような歩道を整備するのではなくリボンやテープ等で必要最小限にすべき。
○案内板や階段等過剰な整備はすべきでない。この点で東大台は過剰であり、西大台の歩道は適当である。
○東大台よりも断然西大台の方が良い。歩道も東大台は木道等が過剰に整備されているが西は適当である。
○東大台の板張りの階段はとても歩きにくく、地面を歩きたかったが、解説板を読んで、納得している。
○道を外れずに歩けるようサイン等の充実を図るべき。自然環境の変容の原因は様々である。大気の影響もあると思うし、総合的な対策必要。

2) マナーについての要望等

○踏み荒らし対策が必要。ロープ等で対策してはどうか。ただし、東大台のような整備は過剰であり、最低限にすべき。
○花がわかる人、知識のある人、マナーのある人だけ入って欲しい。花を知らない人が入っているから、花を踏みつぶしていても平気、気づかない。今日も踏みつぶされていたのを見かけた。ガイドとか、知識のある人が同行すべき。
○大台ヶ原に限らず日本全国でマナーが悪い。これを良くするための努力が必要である。ただし、具体的にどうすべきかは難しい。
○観光地にならないようにした方がよい。西大台はそれほどでもないが、ゴミが問題。これは各自の問題。どこに行ってもゴミが大きな問題だと思う。
○最近西大台でもゴミが増えているように思う。

3) その他の要望等

○事前に上北山村のホームページ等を見てから来訪したが、西大台の情報が少ない。情報提供によって大勢の人が押しかけても困るので、利用制限をした上で情報の充実を図って欲しい。
○西大台は今の状態を維持すべき。自然をさわらず、人が増えないような対策が必要。
○シカの問題は間引くべきだろう。
○ドライブウェイ近くの植林地をみるとがっかりする。広葉樹林に戻して欲しい。
○敢えて言うなら、女性がメンバーの2/3 いるため、トイレがあれば言うことない。もちろん難しいのは分かるが。